

Text/Atsushi TAMADA

デイトナ不動産  
NEWS 01

## LGSは構造体でありながら家具にもなる 室内をさらに楽しくする『FASブラケット』

構造体である艶消し黒のLGSパネルには、外壁材を固定するために600mmピッチに角パイプの脚線があらかじめ取り付けられています。その脚線に万力の金具を応用した留め金具で締めつけて、棚やカウンターのステーを形成する。それが新たに開発し

た『FASブラケット』です。FASとは“Furnituer Although Structure”の略で、文字通り“構造なのに家具である”の意味。構造体と同じく、艶消し黒の粉体塗装焼き付けを施されたFASブラケットがあることで、デイトナハウスが骨組みを露出させた住宅

であることの意味が、より鮮明に浮かび上がります。DIY商品ですから、自分でどどん棚の数や場所を設定できる楽しさもあります。カウンターの板材も、ウォールナット、レッドオークなどの色の濃い堅木から、タモ、ナラなどのナチュラル系板材、杉や松など日本の針葉樹系に至るまで様々に楽しめます。近くそれらのバリエーションもリリース予定です。

FASブラケットの可能性は棚のステーに留まりません。勉強机やカウンター、洗面台、キッチンなど、さまざまな用途を開発していく予定です。また、ガレージの工具やコード類、スペアタイヤの収納用の製品や、サーフボードや自転車の壁掛け金具類、カヌーやボートの吊り下げ用金具など、可能性は無限大。何しろ構造体が家具なので、これほどしっかりして頼りになるものはないのです。詳しい情報は、デイトナハウスのWEBサイトを覗いてみてはいかがでしょうか？

万力の固定金具を応用したFASブラケットの締め付け部分。この無骨さがデイトナハウスには似つかわしい。皮の素材感との相性も抜群。ディスプレイ欲を掻き立ててくれる。



デイトナ不動産  
NEWS 02

## 浜松市内でガレージアパートの続々進行中 GLB第2弾 笠井町プロジェクト

モーターライフの聖地浜松で、先ごろオープンした『balanceGLB』に引き続き、浜松第2弾「笠井町プロジェクト」も進行中です。現在鉄骨建て方、屋根工事も完了して、7月オープンに向けて急ピッチで快進撃中。曲面屋根Rスパンの一部はルーフトレッキになっている“タウンハウス仕様”を採用。GLBの可能性はますます広がります。出来上がりが見えそうです。近く事前賃貸募集を開始予定。詳しいスペックはデイトナハウスのウェブサイトでご確認ください。浜松エリアでは、さらに続編も企画中、さすがモーターライフ発祥の地ですね。



笠井町GLBプロジェクトの鉄骨建て方風景写真。林立する艶消し黒の鉄骨群が、建物の堅牢さを見るものにも実感させる。しかもこの骨組みは内部の空間の重要なアクセントでもある。



Daytona HOUSE × LDK SHIZU HAMA 静岡県浜松市中区葵西5-23-23 053-482-7415 www.balancedesign.jp/daytonahouse

## 高床式『Spiky』が表現する 合理性と秀逸なフォルムの両立

デイトナハウスのオリジナル高床式工法『Spiky-LGS』は、コスト&工期の合理性に優れ、秀逸なデザイン性も高レベルで実現しています。その神髄をここではご紹介しましょう。



兵庫県相生市で建設中のSpiky-LGSの骨組み写真。重厚感のある鉄骨骨組みがフワリと浮かび上がっている様子は更に印象的で、この段階で建物への愛着のバロメーターは振り切っています。床には50mmの断熱材と一体になったコンクリート板を使用。

デイトナハウスが独自に開発した高床式工法「スパイクーLGS」。様々な実例が全国で展開中ですので、すでにご存じの方もいることでしょうか。ここではさらに一段掘り下げたその魅力をご紹介します。

このスパイクー工法とは、先端に羽の付いた鋼管杭を精度管理しながら打ち込み、その上にトラックのシャシーのような鉄骨土台を回し、さらにその上にLGS工法の鉄骨パネルで建築を構成するもので、建築基準法の関係で原則的には平屋の建物に適用されています。その合理性は何と言っても過剰な「基礎」や「擁壁」を必要としないということです。一般に上の写真のような斜面での建築の場合、最初に大規模な掘削工事を行い、コンクリートの塊のような擁壁を作ることを要求されます。そうして土を堰き止めておいて、さらにコンクリートの基礎を作ります。これには時間も労力も必要になり、そして当然コストも高くなります。その点このスパイクー工法は擁壁も基礎も要りません。わかりやすい「合理性」そのものなのです。また、木の根を切

断することも極力少なく、必要以上の土砂を掘削することもない、地球にやさしい工法でもあると言えます。

デザイン的には、余分なことは何もしなくとも、そのふわりと浮かび上がったフォルムは、他の追随を許しません。上の写真はよく「外国ですか？」と尋ねられるのですが、それほど日本には高床式の実例が少ないのです。デザインの基調はミッドセンチュリー。1950年代、アメリカ西海岸の建築ムーブメントの意匠性を踏襲しています。限りなくフラットに近い、超緩勾配の切妻屋根を作り、その庇が外部に直線的に伸びていきます。内部の天井が、ガラス一枚隔てて庇に連続しているような意匠。室内空間がそのまま外部に伸びていくような印象の演出。それがミッドセンチュリーの作法です。

それまで自然を敵対視していた西洋建築が、自然と一体化する意匠として設定した1950年代デザイン。スパイクー工法は経済合理性とデザイン性が高度に融合した、新しい建築のカタチなのです。

ふわりと浮かび上がりながら直線的な庇のラインを強調するミッドセンチュリースタイル。浮かび上がるので4辺で家のカタチを認識します。その結果、建物のプロポーション/縦横比率もデザインの重要な要素になります(写真は茨城県の行方ファーマーズヴィレッジにあるクラブハウス)。



### 遙か昔から存在した 日本ならではの建築の姿



“高床式倉庫”と呼ばれるこの形式の建物は、弥生時代以降の稲作を始め大規模集落の遺跡に必ずあるものですが、最初はお米の貯蔵庫として説明されるこの形式が、やがて階級の高い人間の住居にまで波及します。それまでの竪穴式から高床式へ、この劇的な変化は、やはり日本列島の高温多湿がもたらしたものです。「家は夏を旨とすべし」という言葉のように、床下から換気をとって涼をとる。空気の流通をよくして畳のような垂熱帯性の床材に座って生活する。今の高気密住宅とは真反対の考え方です。デイトナハウスは日本の気候風土に合った住居のカタチ、生活のカタチの源流にさかのぼって様々な考案をしています。



# PLUG IN *Sapporo*



往年のアメ車やカスタムバイクが中心のイベントですが、ディフェンダーやバリバリにカスタムされたタイプIIといった欧州系の姿も。来場者は男性だけではなく、女性や子供さんの来場者も多くアットホームな雰囲気もPLUG IN SAPPOROの特長。

ステージ上のライブ演奏も独特の高揚した雰囲気を作り出していました。



## Daytona House | Event Report |

### PLUG IN SAPPOROに デイトナハウスが出展!!

今年で3年目を迎える、北海道のアメリカンカルチャーイベント「PLUG IN SAPPORO」がGWの最終日5月5日～6日に渡って開催されました。当日はあいにくの天気であったにもかかわらず、会場は大盛況。デイトナハウスもガレージアパルト「GLB」を引っ提げてブース出展しました。

多くのカスタムカーやカスタムバイクがずらりと並び、ステージではオールディーズやラップの生バンドが演奏を続けるにぎやかなイベントです。デイトナハウスのブースにも途切れることなくお客様が遊びに来てくれました。みなさんデイトナ本誌やSNSなどの情報をフォローしてくれている人ばかりで、実に深いところまで楽しい話ができました。

今後も全国のモーターライフ系イベントを中心に積極的に出店していきたいところです。デイトナハウスクルーにお会いしたときは、気軽に声をかけてください。



#### 北海道のカーガイにデイトナハウスの魅力を伝導!!

デイトナハウスのブースには、デイトナ本誌やSNSを定期購読してくれているお客様が、ひっきりなしに遊びに来てくれました。札幌にも個人宅のデイトナハウスや賃貸のGLBを建ててほしいという声も多く、大都市の愛車格納事情のむずかしさも生の声で実感することができました。